

令和7年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 村田 尚
	所在地	むつ市大畑町観音堂25番地1
指定期間	令和5年4月1日～令和8年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1. 施設の使用許可に関すること。 2. 施設の利用料金の徴収に関すること。 3. 食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4. 青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5. 野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6. 自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7. 施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8. 施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9. その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

（単位：千円）

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	97,560	97,331	▲229
うち利用料金額	7,509	6,138	▲1,371
うち指定管理料	90,011	91,006	995
支出合計 (B)	97,560	90,082	▲7,478
うち人件費	60,973	58,307	▲2,666
収支差 (A-B)	0	7,249	7,249
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>収入合計のうち、利用料金額は年間計画額7,509千円に対して、実績額は6,138千円となった。計画に対する達成率は81.7%、1,371千円の減収であった。減収の主な要因は、利用団体の減少である。特に、幼稚園・保育園、小学校は、下北管内の絶対数が減少している。</p> <p>また、繁忙期の夏期に利用団体が減少したことも一因である。冷房機器が無く暑さ対策がなされていないため、利用を控えた団体もあった。</p> <p>一方、自然の家が閉館すると聞き、何度も利用してくれた団体等もあった。</p> <p>支出</p> <p>支出の執行額は、年間計画額97,560千円に対して、実績額は90,082千円となった。計画に対する執行率は92.3%である。電気料の高騰、経年による備品の更新に伴う計画以上の支出はあったものの、施設、設備の点検をこまめに実施して修繕料を軽減できたことが主な支出削減の要因である。また、人件費が計画よりも少なかったことも収支差額の要因である。</p>		

3. 施設利用の状況

(単位：人)

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	宿 泊	1,000	844	▲156
	貸 館	80	97	17
	食 事	11,000	10,469	▲531
	リネン	1,300	1,094	▲206
	教 材	2,100	2,354	254
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無) 主催及び自主事業参加者、受入各団体に対し利用者アンケートを実施している。また、利用団体との打ち合わせの充実を図り、団体の要望等を事前に聞き対応している。				

4. 自主事業の実施状況

(単位：人、千円)

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
健康づくり「春」	34	45	34
ファミリーキャンプ	31	141	135
健康づくり「秋」	26	37	29
伝統体験としな作り	49	66	46
伝統体験べこもち	23	45	33
伝統体験そば打ち① (おひとり様対象)	16	46	30
伝統体験そば打ち② (グループ対象)	26	47	40
伝統体験そば打ち③ (グループ対象)	25	44	38

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準

A (優 良) : 計画された業務水準を大きく超える独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B (適 正) : 計画された業務水準を概ね達成した。

C (要改善) : 計画された業務水準を達成できなかった。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B

②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価

<p>㊦指定管理者は当該評価期間における自己評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、改善策も記載すること。</p> <p>令和7年度の利用状況は、利用団体数234団体（前年度244団体）、利用実人数4,725人（前年度4,605人）、利用延べ人数6,180人（前年度6,043人）となり、前年度と比較して、利用実人数が120人増加し、利用延べ人数は137人増加した。幼児・児童生徒の減少とここ数年の猛暑による利用控えはあるが、自然の家が閉館するという話を聞いて、何度も利用してくれた団体もあった。</p> <p>主催事業については、児童対象の宿泊事業は、毎回キャンセル待ちが出るほど好評だったが、今年度は学校の行事と重なり、全て定員割れとなった。</p> <p>安全安心な活動を提供するため、備品・教材等については日常的に点検しているほか、原状復帰を目指し、設備等の修繕もおこなった。</p> <p>食堂事業では、食材・燃料高騰の影響があったものの、メニューを工夫して季節感や満足感を得られるようにしたことから、利用団体及び主催事業、自主事業の際のアンケートでは利用者の評価は高かった。</p>

7. 市の所管課総合評価

<p>㊦所管課は当該評価期間における総合評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、指導内容も記載すること。</p> <p>施設利用料金は、計画額の81.7%にとどまったものの、対前年比では、19.9%増となっていることから、充分、評価に値するものである。</p> <p>また、利用人数は、対前年比2.6%増、宿泊人数は、対前年比2.8%増となっており、施設運営最終年度であることも要因のひとつと考えられるが、評価のできる結果となった。</p> <p>また、自己評価は、全項目Bとのことであるが、自主事業の利用者アンケートでは、評価が高かったとのことであり、長期に亘り当該施設の指定管理業務を担い、総体的には、評価の高い業務実績により閉館を迎えたものと考ええる。</p>
